

# 世界遺産を活用した観光振興のあり方に関する研究

小室 充弘 主任研究員

## 1. 研究の背景および目的

地方創生が重要な政策課題となっているが、地域独自の観光資源を活かした魅力ある観光地づくりが求められている。

こうした観光資源として、本来は観光振興を目的とするものではないが、世界遺産が注目を集めるようになってきている。

富岡製糸場など最近の事例を見る限り、登録を契機に観光客数が急速に増加している。

しかしながら、世界遺産が長期的に当該地域の観光振興に寄与しているかについては疑問が存在する。

また、観光客の増加によって世界遺産の保全に支障が生じていないかも懸念される。

本研究では、こうした問題意識を踏まえ、

- ①世界遺産と観光についての関係の整理  
(登録後の観光動向、観光振興と世界遺産保全等の関係、関係者の取組みや問題意識等)
- ②有識者の知見・認識についての把握
- ③世界遺産を活用した持続的な観光振興に関する課題と対応策の整理  
を行うものである。

## 2. 重点研究対象の絞り込み

### 1) 世界遺産の類型化

日本国内は17件の世界遺産が存在するが、まずは先行研究に従い、登録後の観光客数の変化により、

- A：登録により観光客数が急増
- B：登録後も堅調に推移又は下げ止まり
- C：登録にもかかわらず減少

の3タイプに分類し、このうちA（屋久島、白神山地、川郷、紀伊山地の霊場と参詣道、石見銀山の5件）に重点を当てることとした。

### 2) 文献調査とケーススタディ対象の抽出

Aタイプの5件について、登録後の観光動向、観光振興と世界遺産保全の関係について文献調査を行い、観光客数が短期間で急速に増減、観光と遺産保全について積極的に取り組んでいる等の理由から石見銀山をケーススタディの対象に選定した。

## 3. 石見銀山でのケーススタディ

地方自治体へのヒアリング、地域住民・地場企業へのインタビューによって、受入側の観光振興、観光と遺産保全等の調和に関する取組内容や問題意識を把握した。

また、観光客アンケート調査（個人客、団体客）によって、観光客の活動実態、世界遺産保全の理解度・観光の満足度・再訪問意向、世界遺産保全等への協力意思を確認した。

詳細は当日に報告するが、地方自治体は、観光客数がピーク時よりも減少していることにあまり危機意識がなく、また、観光と遺産保全等の調和は概ね達成されているとの認識であった。

地域住民・地場企業は、世界遺産登録を肯定的に評価しているが、観光と遺産保全の調和等を中心に意見の相違がみられた。

観光客の動向等からは、世界遺産は初来訪者の誘致に効果があるものの、リピーター確保にはあまり効果がないこと、世界遺産保全の理解度・観光の満足度は比較的高いが、これが再訪問意向に結びついていないこと、世界遺産保全等にはかなり積極的な協力意思があることなどが確認された。

## 4. 有識者の知見・認識の把握

観光関係の研究者から、世界遺産登録が観光に及ぼす影響、観光と遺産保全等の関係のほか、世界遺産のインバウンド観光への活用を含め、指摘・助言を受けた。

## 5. 持続的な観光振興に関する課題と対応策

石見銀山でのケーススタディと有識者の知見・認識に基づき、世界遺産を活用した持続的な観光振興に関する課題の抽出と対応策の検討を行った。

地域の関係者の協議により、遺産保全等に考慮しつつ、一定の需要を維持するための戦略的な取組みを進めることを軸に整理している。